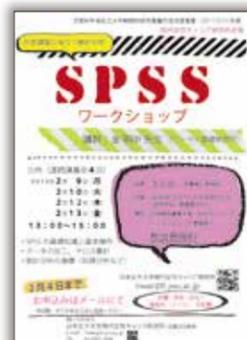


社会調査に役立つ統計分析：SPSSワークショップ

2015年2月9日(月), 10日(火), 12日(木), 13日(金) 講師：金明中先生(ニッセイ基礎研究所)

学内の学生・教職員を対象として、社会調査に役立つ統計分析：SPSSワークショップを開催いたしました。今回はメディアセンターの協力を得て、コンピューター演習室で行われました。ニッセイ基礎研究所の金明中先生により、4回の連続講義として、SPSSの基礎知識と基本操作から、データの加工、クロス集計、統計分析の基礎(回帰分析)までをご講義頂きました。定員30名を超える申込みを頂き、参加者からも大変好評を得ました。



自治体ヒアリング調査

東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県を対象に女性の再就職支援に関する取り組みについてヒアリング調査を行いました。各自治体それぞれの特色や課題が見られました。

関西学院大学 ハッピーキャリアプログラム視察

2015年2月20日に関西学院大学ハッピーキャリアプログラムの視察を行いました。大内章子先生にプログラムの概要などについてお話を伺い、佐藤善信先生による「ビジネスに活かす経営戦略の考え方」の授業を見学させて頂きました。

RIWAC-DA (リワック・データ・アーカイブ)

日本女子大学現代女性キャリア研究所では、国際婦人年(1975年)以降に実施された、女性とキャリア(生き方)に関する社会調査を多数収集し、その詳細書誌をデータベース化しネット上で公開しています。「男女共同参画」、「DV」、「メンタルヘルス」、「リプロダクティブヘルス」のキーワードが加わりました。また、著者の方から科研費や自治体の報告書を多数ご寄贈頂きました。

レポートや論文作成、ゼミ報告などに、多様な社会調査をぜひご利用ください。

<http://search.riwac.jp/>

所蔵件数 約 1500 件 (2015年3月現在)

紀要『現代女性とキャリア』

年に一回、紀要『現代女性とキャリア』を発行しています。論文のほか主催した講演会やシンポジウムの記録、研究所の事業活動に関する報告を収録しています。また、投稿論文も受け付けております(詳細は研究所HP参照)。

紀要をご希望の方は、切手(1冊400円、2冊以上は要問合わせ)を貼った返信用封筒(B5サイズの入る大きさ)を当研究所へお送りください。



お願い

当研究所では、女性とキャリアに関する社会調査のデータアーカイブ(<http://search.riwac.jp/>)を公開しています。

女性とキャリアに関する社会調査資料をお持ちの方は、ご協力お願いいたします。

News Letter

Research Institute for Women and Careers

RI*WAC

日本女子大学
現代女性キャリア研究所

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

TEL 03-5981-3380 FAX 03-5981-3381

E-mail riwac@fc.jwu.ac.jp URL <http://riwac.jp/>

シンポジウム「男性がケアを抱えるとき～女性労働をささえるもうひとつの観点～」

2014年12月13日（土）

女性が社会で活躍するためには、育児・介護などのケアを男性と共に分担していく必要があります。今回のシンポジウムでは、男性がケアを抱えたときにどのような問題が起こるのかを明らかにすることで、その打開策を探りました。

基調講演には立命館大学大学院の天田城介先生をお招きし、パネリストにニッセイ基礎研究所の土堤内昭雄先生、東京都健康長寿医療センター研究所・日本学術振興会の平山亮先生、本学永井暁子先生のご参加を得ました。

まず、「男がケアをするということーケア・労働・ジェンダー」という演題で天田先生にご講演いただきました。天田先生はアメリカと日本両国での育児の経験と学生時代の介護経験をふまえながら、男性と女性のあいだでは良好な社会関係の維持に関する認識の齟齬があること、また家族以外の重要な社会関係について考えた場合、男性は「会社の仲間」との付き合いであることが少なくなく、ケアに専念しなさいは社会関係を切断・分断してしまう危険性についてもご指摘されました。

この基調講演を受け、パネリストの先生方にそれぞれのご専門からご報告をいただきました。土堤内先生は「ケア」が育む持続可能社会

というタイトルでご自身の育児介護経験や社会問題にもなっている病気の療養しながら働く人にも着目することで、持続可能社会についてご報告されました。その後、平山先生より「親を介護する息子たち」というタイトルで、第三者によって息子介護者と認識されている人へのインタビュー調査の結果から、介護そのものの負担は息子があっても生活に関わる家事のほとんどは妻が担っていることが多く、妻個人のライフコースからみるとケア労働が軽減されているとはいえないという知見をご報告いただきました。

そして、永井先生より「家庭内の非対称性」というタイトルで、家庭内の男女の働き方についての非対称性は、社会システムからもたらされるものであり、男女を非対称な位置に置く社会システムを維持するものであること、非対称な家族によるケアや生活保障のシステムは、ひとたび家族が機能しなくなった場合、あるいは典型的な家族であっても、想定を超えたケアが必要になったとき、生活保障が崩れた時に私たちは生活の基盤を失うという家族の逆機能の可能性について示唆されました。

その後、報告者が一堂に会し、フロアからの質問も交えて、従来の男女の役割分担を超えるためには、多様な価値観を社会が受け入れることが必要であることが話し合わせ、学内で開かれたささやかな懇親会にも、多数のご参加をいただき、心のコもった交流がなされました。

なお、このシンポジウムの記録は、来年度の当研究所の紀要、『現代女性とキャリア』第7号に掲載する予定です。



シンポジウム「女性の活躍推進と司法の課題 ～中国電力男女賃金差別事件・控訴審判決から見えてくるもの～」

2014年6月20日（木） 講師：宮地光子先生

日本女子大学新泉山館において、シンポジウム「女性の活躍推進と司法の課題～中国電力男女賃金差別事件・控訴審判決から見えてくるもの～」を開催いたしました。中国電力における男女賃金差別裁判は、現在、最高裁に上告されており、その判断が待たれているところです。

当日は、担当弁護士である宮地光子先生をお迎えし、日本における賃金差別裁判の歴史的経過や、中国電力事件がもっている意味、さらに最高裁判決に向けての取り組みなど、詳しいご報告をいただきました。また、広島から原告の長迫忍さん、支援者の森田豪さんにご参加くださいました。長迫さんが、この裁判を闘ってこられた長年の思いと最高裁判決に向けての決意を語られると、フロアからは大きな拍手がおこりました。さらに、ともに闘ってこられた支援者の森田豪さんからは力強いメッセージが発せられ、改めて、この裁判の重要性をフロア全体で共有することとなりました。フロアには、最高裁上告に際し、「最高裁への意見書」を執筆されたシカゴ大学の山口一男先生も駆けつけてくださいました。山口先生は高裁判決で女性差別にあたらなとの判断がなされた男女間の「分離」を、統計学的には起こりえない分離と指摘されています。

司法や企業におけるジェンダー・バイアスを取り除き、男女格差を是正していくために、何が重要なのか、何をしなければならないのか、それを問いかけるシンポジウムとなりました。



文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（2011～2015年度）

プロジェクト名	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
「女性とキャリアに関する調査」	Web調査・分析・報告書発行				
リカレント教育課程修了生調査 「女性のキャリア支援と大学の役割に関する調査」		アンケート調査・分析・報告書発行			プログラム評価
			インタビュー調査・分析・報告書発行		
			新プログラム提案	再就職支援プログラム試行	
教職調査 「教職免許状取得者のキャリアに関する調査」		アンケート調査・分析・報告書発行			プログラム評価
			新プログラムの提案・再就職支援プログラム試行		
企業調査				アンケート調査/インタビュー調査・分析・報告書発行	
データアーカイブ		日本女子大学卒業生調査データ化	データアーカイブの運用と拡充		
シンポジウム	「災害復興と女性の自立」	「女性の再就職支援と大学の役割—国際的経験の交流」	「女性の活躍推進に、いま何か求められているのか」	国内シンポジウム	国内シンポジウム（プロジェクト成果報告）
ワークショップ・研究会	「SPSSで学ぶ統計分析入門」（前期）	「SPSSで学ぶ統計分析入門」（後期）	「SPSSで学ぶ統計分析応用」（1）	「SPSSで学ぶ統計分析応用」（2）	「SPSSで学ぶ統計分析応用」（3）
プロジェクト報告書			中間報告書発行		最終報告書発行

リカレント セルフリーダーシップ・プログラム

講演会「女性と仕事」

2014年6月13日（金） 講師：合同会社西友執行役員 平林浩美さん

合同会社西友の執行役員 平林浩美さんを講師にお迎えし、「女性と仕事」と題しての講演会を開催いたしました。

講演会では、平林さんが今までどんなお仕事を経験されてきたのか、どんなご苦労があり、それをどのように乗り越えてこられたのか、仕事でのやりがい、家族からの支援など、ご自身のご経験を変容具体的にお話くださいました。また、西友の親会社であるウォールマート・ストアーズの経営理念、カルチャー、そして全世界で女性が活躍していること、それをさらに推進するための活動について、ご説明いただきました。西友の取組みについても、女性の活躍を応援する人事制度について、時給の社員からスタートして今では店長として活躍されている方のこれまでのキャリアの歩み、女性が働きやすい店舗づくりのためにどのような工夫をしているのかなど、具体的な例をあげながらご紹介いただきました。

当日は、本校リカレント教育課程生や大学・大学院の学生など、50名ほどの参加を得て、熱心な質疑応答が行われました。

女性の再就職のための体験型プログラム「セルフリーダーシップ・プログラム」

2014年9月2日（火）～9月6日（土）

現代女性キャリア研究所とリカレント教育課程は、合同会社西友の協力を得て、女性の再就業のための体験型プログラム「セルフリーダーシップ・プログラム」を実施し、リカレント教育課程生十数名が参加しました。

プログラムの内容は、西友の店舗、物流センター、惣菜工場などの見学や、そこで働く人たちとの議論を通し、現場の課題を発見、解決策を提案するというものでした。

参加者は3日間にわたって非常に熱心に議論、提案作成、練習を行い、最終日には西友の役員の皆様の前でプレゼンテーションを行い、西友の皆様との間で熱心な質疑応答が行われました。

プログラム終了後の参加者へのインタビューでは、「現場で働くという感覚がよみがえってきた」「役員の前でのプレゼンテーションはとても緊張したが、温かいコメントに励まされ、またビジネスの視点での改善点を指摘していただき、とても勉強になった」「グループでディスカッションをし、意見をまとめ上げていくことが難しかった。でも仕事の場面ではこのようなことは日常的に行われるので、良い訓練になった」などのコメントがありました。このプログラムを通して、参加者の皆さんが多くの気づきを得ることが出来たようです。

